

大鹿村議会だより

第20号 平成29年7月15日 発行：大鹿村議会 TEL：0265-39-2001

平成29年6月

大鹿村議会6月定例会

平成二十九年六月大鹿村議会定例会が六月九日から十五日までの七日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、報告二件、付議事件十一件、議員発議一件で、すべて原案どおり可決されました。請願・陳情は請願三件で、請願二件は採択されました。

報 告

報告第一号 平成二十八年度大鹿村一般会計繰越明許費計算書の報告について

報告第二号 平成二十八年度大鹿村営水道特別会計繰越明許費計算書の報告について

付議事件

議案第一号 平成二十九年大鹿村一般会計補正予算（第一号）について

▼福祉団体への施設改修補助など。

議案第二号 平成二十九年大鹿村民健康保険特別会計補正予算（第一号）について

議案第三号 平成二十九年大鹿村立診療所特別会計補正予算（第一号）について

議案第四号 平成二十九年大鹿村営水道特別会計補正予算（第一号）について

議案第五号から十一号まで 大鹿村農業委員会の委員の任命につき同意を求めるについて

▼農業委員会法の改正により農業委員は村長の任命制となりました。田代久夫さん、中村和雄さん、北村瞳さん、稲田文夫さん、森下敏彦さん、兼岡良和さん、松尾勲さんの七名が三年間の任期で任命されました。

請 願

一、「義務教育費国庫負担制度の堅持」を求める請願書

▼採択されて意見書を提出

一、国に対して給付制奨学金制度の創設を求める請願書

▼平成三十年からの制度創設が決定され、既に今年度から先行実施されているため不採択としました。

一、「テロ等準備罪法案に反対する意見書」の提出を求める請願書

▼賛成四名で採択されましたが、本会議での採決当日の朝、法案が成立したため、意見書提出は見送りました。

議員発議

発議第一号 義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書の提出について

一般質問

○河本明代議員



*リニア工事に関わる連絡調整、チェック体制について

【質問】

四月二十七日、釜沢地区の除山非常口において南アルプストンネルの掘削が開始されたが、このことについての村や自治会への連絡は前日の夕方だった。除山非常口では、赤石岳公園線の拡幅改良も十一か所中三か所しか完了していない中、日によっては往復

四〇台もの大型工事車両が通行している。道をきちんと拡幅してから大型工事車両が入るのが筋かと思うが、拡幅が少しずつしか進まない状況のまま、じわじわと工事車両が増えていく。ヤード整備においては防音設備がまだできていない中で、大きな騒音が発生する作業も行われているようだ。

「地元住民等への丁寧な説明を通じて地域の理解と協力を得る」ことが疎かにされ、JR東海の言いなりに工事がどんどん拡大していき、住民が過度な負担を強いられたりするのではないかと危惧する。

現在リニア連絡協議会は三か月に一度のペースだが、それで連絡調整が十分に図られるのか。単に決まったことの報告を受けるだけの場になってしまっているのではないか。次の新たな段階に進む場合、説明会の内容から変更がある場合など、全村的な観点からも事前に意見を出せるように協議会の日程を設定してほしい。

住民から出てきた苦情等への対応がどうなっているのかも、協議会の場で共有してほしい。さらに環境影響評価書や確認書に記されている保全措置が確実に実施されているか、また効果の検証なども必要ではないか。

村長 リニア連絡協議会については昨

年十二月に一回目を行い、三か月に一回のペースで委員の皆様にご協力をいただいている。三月までは工事はあまり進行しておらず、質問、意見等は少なかった。しかし、幾つかの意見や質問があり、その都度JR東海、工事のJV、小洪線のトンネル工事のJV等に伝え、対策を求め、それぞれ対応してもらった。主には松川インター大鹿線の通行に関するものだった。

現状では工事の進捗等は村のホームページ等でお知らせしているし、釜沢については翌日の作業については住民の皆様にはお知らせしていると聞いている。三月の連絡協議会では事例等少なかつたが、今後は今までの間に起きたことについて協議会の場でお知らせしていくようにしていく。

今後の対応だが、今までと同様、リニア対策室を中心としてチェック、申し入れ等はしていく。保全措置の検証も、今後事業が進行してくるので、それぞれ該当するものについてチェックしていく。それは対策室が中心になる。

質問 その都度対策を求めているというところだが、やはり苦情等はあるので、実際にどのように改善されているのかが広く分かるような形で伝えていただけたらと思う。

特に観光客などたまに来られる方に

としては、工事が始まってすぐ増えたという声をよく聞く。昼休みは台数が少ないなど、観光客対応も含めた情報提供も、影響を減らす取り組みとして考える必要があるのではないか。

村長 確かに小洪線の苦情はあったが、一つ言われたことは解決していると課長からは聞いている。あの色の車は困ると言われたものは、その色の車は最近見なくなったというような情報も得ている。こういうことがあって、こういうことを申し上げて、こうなったということは、許される範囲で協議会でお話をしなければいけない、そうではないと理解はしてもらえないのかなと思っている。

観光関係へのお知らせは、できないことではないと思うので、相談しながら取り組んでいければと思っている。

○東村邦子議員



*光回線の料金設定について

質問 五月に行われた住民懇談会で、通信情報網の光回線の説明があった。光回線による通信網の高速化は、時代の流れと村の現状施設の補修期限の重

なりから検討が必要な点は理解できた。しかし、料金設定の点でいくつか問題があるのではと声が上がっている。

村の説明では、インターネットを使用していない家庭には村で料金を補助していく予定であると伺った。インターネットばかりでなく、携帯電話、スマホの普及で固定電話を設置していない家庭もあるし、テレビを見ていない方も増えている。固定電話不使用、テレビ受信をしない家庭にも部分補助を当然考えておられると思うが、その辺を伺いたい。

村長 現在検討しているものについては三点セットは必要事項だ。これは欠くことができないというのが基本だ。個々の料金については懇談会でお示してきた。テレビがないのでその分減額、電話を使わないのでその分減額という方式での補助は現在考えていない。あくまでセットという考えだ。

費用についての質問があったが、それについても今後研究していくが、概略のものは考えている。具体的な数字は今日持ち合わせていないが、いずれ提示することはできる。

質問 この三点セットの料金設定に関しては、村が検討中である飯田ケーブルテレビのサービス利用の根幹となるNTTだけでなく、KDDIも三点セッ

トの基本料金をあげている。

三点フルに使う家庭とそうでない家庭の公平を図るのに、村としてどうするかというときに、財源確保が問題になってくる。そのときに、美しい村づくりの交付金(五〇〇〇円の商品券)が補助に回されるのではないかと住民から心配の声がある。公平化の財源をどこから考えているか。

村長 今回の改良工事をした場合の通常の費用については、住民の皆さんに負担していただく部分と、補助するという意味で村が負担していく部分がある。村が補助するものの財源については、当然ながら一般財源になる。村が独自でケーブルを張り替え、機械を買い換え、その後に維持していく費用と、N T Tが回線を維持していくという意味での差し引きを考えた中で、こちらの方が財源的、総額的に非常に有利だという考えの下にこちらの方式を採ったかどうかという提案だ。

質問 一番大きなメリットはN T Tの光回線施設の提供であると思うが、中部テレコミュニケーションの光回線借用の中で、N T T並の光回線施設の提供ができないものか、自治体規模で申し込めば検討余地はあるという話も伺っている。ぜひこの辺を探っていただきたい。K D D IとN T Tを比較すると、

光回線になるとK D D Iは村内の電話がかけ放題、無料になるし、国際電話が国内と同じ金額でサービスが受けられる。ぜひこの辺のN T TとK D D Iの比較をもう一度、もししたら交渉余地があるのではないか。

村長 とりあえず比較ということでお話を聞いてみたいとは思った。細かな点についてはその都度ということになるかと思う。料金について、確かに現在利用している中で大きな差があるので、極力その差を少なくするように料金設定を研究していきたい。電話とインターネット三点セットすべて使う方はそれなりの金額になるかと思うが、考えられる範囲でうまくみんなが納得できるような料金体系を考えていきたい。しっかり検討してご納得いただく必要があるので、また皆さんのご意見を伺うことがあろうかと思う。

***松川インター大鹿線トンネル工事について**

質問 松川インター大鹿線改良工事の二か所のトンネル工事が本格化して、ダンプの台数が増えてきている感じがある。私も落合から渡場までの往復、ダンプのすれ違い台数を一月から記録しているが、二十分程度の時間内にこれまで二十数台であったものが、五月

に入って三〇台を超える台数になっている。たまたま三時過ぎに下っていたときは四十数台とすれ違ったと聞いた。どちらの工事のダンプか識別できなかったが、トンネル入口付近から五六〇キロのスピードで飛び出してきたダンプに同乗のドライバーが急ブレーキをかけてヒヤリとした。トンネル内も五〇キロ以上のスピードで走るなど、マナーの悪い車両が目につく。

個別に単なる申し入れで終わらせるのではなく、大鹿には小渋線を熟知したマナーの良い優良ドライバーがいるので、講習指導など村から各現場に提案していく必要があると思うが、村長はどのようにお考えか。

村長 こういう車がいたという申し入れについては、苦情等あれば当然すぐにJ R東海、また工事のJ V等に伝えている。大きくは小渋砂利運搬安全対策連絡協議会の総会でも今までも伝えてきているところだし、今後もこれを最大限に使っていく。ダンプカーの場合には後部に入っている数字を具体的に言ってもらえれば、対策連絡協議会の中でも、そういうことはぜひお願いしたいということになっている。そうしていただくのが一番効果が上がる。そのように伝えていただいて、マナーがよくなってくれば、みんなが安

全に通れると思っている。

質問 目に余るものは言っていくということで、村民が一致して同じ情報を持つとよいかと思う。それから砂利協会の方の集まり等、大鹿関連でダンプの走行をしている方々との懇談があった場合には、ぜひそういう意識の改革の話をしていきたい。

先日観光協会の懇談会の中で、新会長からトンネル入口に一般車両優先の表示は出せないものかという具体的な提案があった。西下トンネルは特にそうだが、一般車両優先で通れるとなれば、一般車両があえてクラクションを鳴らすこともなくなるのではないかな。小さな事項でも積み重ねれば大きな安心、スピーディーな走行につながっていくと思うので、一般車両優先というのは可能かどうか、ぜひ迅速な対応を望む。

村長 県管理の道路なので県とも相談しないといけない。しかし、一般車両優先というのは農道にはよくあるが、一般の国道や県道にそういうものがあるのか疑問に思う。

小渋線にたくさんさんの標語があるが、そのうち六つの標語には「譲り合い」という言葉が入っている。お互いに事故が起きたら損なので、注意して運転していくことが大事だと思う。

○秋山光夫議員



*自治会防災倉庫備品の再検討

質問 昨年六月の一般質問で防災体制の再検討を質問した。一年が経過したが、何の改善も見られない。

村長は三六災害の経験から大鹿村各戸は食料等保存しているという基本的な考えがあるので、各自治会倉庫に水・食料等は備蓄せず、何か所かの安全に置いておける場所に備蓄していると答えられた。

三六災害は豪雨で道路、河川、崖等が崩落、多くの被害は出たが、倒壊を免れた家屋が多く、自助、共助も行えたと思像できるが、巨大地震では大鹿村の家屋は築年数も古く、多くは倒壊すると予想される。三六災害を基準とした考えの防災対策はかなり無理がある。村長の答弁では、逐次検討する中で補足するなり撤去するなり対応していくとのことだったが、何も対応されていない。

まず自治会集会所または防災倉庫の中に、最小限でも水、食料、医療品を確保し、備えあれば憂いなしの体制をつくり、あとは自助、共助をもって来

るであろう巨大地震に対して心づもりを持つことで被害を最小限に抑えられる。さらに役場の救助体制の立ち上げの時間も稼げる。速やかに検討され、実施してくださることを期待する。

村長 現在、国においても、それぞれのご家庭で食料等三日分くらいは個々に確保されたいと常にアナウンスされている。その点は、それぞれのところできっちりお願いしたい。

防災倉庫の貯蔵品については、昨年八月中旬に自主防の班長会があつた際、私からの挨拶の中で、不要な物、改めて必要な物があつたら申し出をお願いしたいという話をした。総務課の方へ出てきたものを確認したが、特に申し出はなかった。今のところはあの状態が良いのではないかと考えている。

*美しい村観光拠点、福德寺脇トイレは適正か

質問 昨年六月の一般質問で、北川露頭に新設されたトイレの環境と配置について質問したが、問題点なしの正当化する答えばかりで、結果を押しつけられたと感じているのは私だけではない。その際、これから着工する上蔵・福德寺脇のトイレは美しい村にふさわしい環境を考え、十分な検討と地域住民の意見を取り入れて建設してもらえ

るよう申し入れたが、結果、北川露頭と同格のトイレが完成してしまった。

福德寺は観光シーズン、たくさんの方が見学者、観光客が訪れる。役場はその人数を概算でも把握して、あの規模のトイレを設置したのか。掃除道具を収める場所もない。型どおりの小さなトイレができてしまい、上蔵の方たちは非常に落胆している。

さらにトイレの位置は古木イチヨウの木から五メートル余りしか距離がない。根がかなり切られて、イチヨウが心配だという声が多く聞かれた。

今後は事前に、平面図、立面図、配置図を作成し、住民説明を確実に実施していく体制を作っていたきたい。

村長 既存のトイレは男性用の小便器と洋式トイレ各一個ずつだった。建て替えの希望は以前からあつたが、増設という話は特に記憶していない。現在のトイレは男性用小便器、身障者用、女性用と三つになっている。身障者用トイレは一般の方も使える。今年も安康露頭にトイレの計画を進めているが、ほぼ同様の規模でいくことになる。

掃除用具の置き場所がないことについては、懇談会ではつきり言われたので、これについては対応するように教育委員会に指示してある。

イチヨウの木については、根は切つ

たかもしれないが、どの程度か確認しているわけではないので何とも言えない。枯れるところまで影響があるかどうかは分からないが、場所については今後の県道の改良等含めた中で、地元の方とも相談しながら進めてきた。

質問 美しい村・大鹿村にふさわしい景観美を考えた配置、向き、大きさを検討していただきたいと露頭の時に話したが、今回もやはり同じように下から上がっていくと、トイレの裏側の臭気塔が出迎えてくれる。あの向きで良かったのかどうか。

村長 場所の決定については、道路の改良等あるので、地主さんにきちんと相談した。地域の方全員から意見を聞いたわけではないが、地主さんからOKが出なければできない話だ。

臭突については完成写真を見た途端に私はいきなり「何だ、これは」と言ったことも事実だ。あの形の中で、あの色はまずいので、着色するよう指示したところだ。

各種の建物について、平面図、立面図をすべての村民に示して可否を決定していただくというところまでは多分できないと思う。みんなの意見を伺っていると、事は進められないということとは当然ある。その辺はご理解いただきたい。

○齋藤栄子議員



＊鹿塩地区館改修について

質問 大鹿村公民館鹿塩地区館は築三十数年たっており、使用しづらくなっている箇所が出てきている。鹿塩地区

館の一角は西地区の集会所、鹿塩地区の避難所にもなっている。さらに大鹿歌舞伎の貴重な衣装や大小の道具が収められ、公演前には専用舞台で稽古もされている。また定期的に鹿塩獅子舞、書道教室、公民館クラブのカラオケ、ジャズ研、ハワイアンダンスの皆さんが練習会場に使うなど、文化、芸術活動の重要な拠点ともなっている。新たな文化施設とは望まないが、傷んだ箇所の修復や高齢者にも使いやすいよう改修するときに来ていると考える。今後の地区館の改修等の考えをお聞きたい。

村長 大広間の床のことは以前から話題になっていると思うているが、交流センターと違って木造建築であり、交流センターの場合はたまたまうまく面積を広げることができ、ああいう形が取れたが、鹿塩地区館の場合はあのまま畳を普通のフローリングにしてしま

うと、収容人数が大幅に減るのではないかと考えていた。

何をどうしていったらいいのかということは、今のところ特に考えていない。こんな点をこうしたらというご提案があれば、しつかり出していただけて進んでいくものと思う。

質問 以前、村長に外のトイレが壊れているので直していただきたいとお願いしたところ、木工館のトイレを使えばよいのではないかとというご提案をいただいた。しかし、あそこのトイレも直していただきたいと思っているし、廊下に使わない水場があり、それも少し邪魔になってきている。台所も洗いが狭く、うまく使えない。それから、玄関の重い戸と高いカーテンがあるが、あれが外れてもなかなか直せない状況になっている。

村長 具体的な不都合な所をお伺いできました。こういうことは直接教育委員会なり私どものところにお伝えいただければ、早めに手配できる場合もあるので、そんな点をお願いしたい。

＊災害時における地域女性住民の組織作り

質問 大鹿村では今年、三月、四月、五月と火災があつた。五月の火災は深

夜二時前だった。消防団員や村内の多くの男性が消火活動に参加されていた。元消防団員の訓練された力強い行動、若い団員の行動に頭が下がった。

近くの集会所には何かお手伝いがあればと、深夜にもかかわらず数人の女性が待機しておられた。日赤奉仕団には火災時には自発的には出動しないのが原則だとこの時初めて聞いた。何時間もかかる消火活動に、やはり炊き出しは必要ではないかと思うが、誰がその判断をして指揮を執るのか、各地域で決めておく必要があるのではないか。

六月六日現在、大鹿村五〇二世帯のうち、六十五歳以上の一人暮らし世帯は一一一だ。薪を使った生活をする若い世代も増えている。火災を出さないことが大切だが、有事の際、女性の役割体制をつくっておかなくてはとこの時痛感した。

村長 災害の場合に活動していただくのは赤十字奉仕団になると考えている。村内全域にわたる大きな規模の災害になると奉仕団全体での行動になる。人家火災等は特定の地域、狭い範囲になるので、本来ならば各自治会の奉仕団の班長さんが中心になると考えられる。しかし、めったにないことなので、急な対応はなかなかできない。現状の奉仕団の班長さんのみで判断するのは

難しいと思うが、自治会長さんや自主防災の班長さん等にかかわっていただいて、ご判断いただければと思う。

災害の規模によって、炊き出し等が必要か、そうでないかという判断もその場で出てくる。人家火災でも非常に短時間で済んでしまう場合もあるし、今回のように夜間で非常に苦勞した点もある。その場、その場の判断になる。できれば地域内の方々と相談して判断いただければと思うし、ご親戚等、身内の方も心配されて、私に相談してくれた経過もある。いわゆる共助というイメージで対応していただければ考える。

新たな組織というご質問もあつたが、これからそれを編成して即応体制がとれるかといえば、なかなか難しい。赤十字奉仕団という組織があるし、九月には訓練もある。その場で、「こういう例があつたので、班長さんご協力お願いします」という話はさせていた

きたい。また、消防団のお話があつた。かなりご理解いただいて入団していただいているが、まだ消防団に入団していただけない若者がいらつしやる。ぜひ入団して地域のために活躍いただければと思う。

○北島千良穂議員



*道の駅の経営について

質問

先般行われた自治会懇談会で、道の駅の生活店舗について第三セクターで進めると聞いたが、現在の秋葉路の組織でやるのか、または新たに株主を募集し、新組織でやるのか。

秋葉路の組織で始めるとしたら、株主総会では株主が生活店舗についてどのような意見をお持ちだったか。

生活店舗が開始するときはかなりの資本が必要と思うが、どのように考えているか。

長年の経営でもし多くの借財ができるときには、村は補填するか。

ビガーハウスの改装、秋葉路の解体と計画はあるものの、我々が分かっているのは平面図のたたき台だけだ。いつ頃本図面が示されるのか。確実な予算はどのくらいになるのか。

村長

大鹿村は有限会社秋葉路の株主になっている。株主としての考え方としてお答えさせていただく。まず組織だが、私は現行のままでいくのが良いのではないかと考えている。昨年の総会において、道の駅の整備計画が研究

されているので、そちらに向けて検討していくというお話が代表取締役の方からあった。その中で、直売所や食堂にも取り組んでいきたいというお話があったと聞いている。

二つ目の株主総会というお話は、今も少し申し上げたとおりだし、今年の総会は六月中に開かれるとは聞いているので、また話題になるうかと思っている。

三問目の質問だが、現状、負債があるわけではなく、今後の人、物の動きを想定する中で初期投資の費用が研究されてくると思う。その結果として、増資、また借入れの判断がされて、株主総会等に提案されると思うので、その段階で判断させていただきたい。

四番目だが、現段階そのような考えは持っていないし、そのようなことにならないように努力を願う。

あと、いつ頃と、予算のことだが、通告の中になかったので持ち合わせていない。懇談会で日程等は示しているが、ちょっと遅れているので、できるだけ早くお示ししたい。

*リニア工事残土本置き場とその後について

質問

昨年十一月の南アルプストーンネル工事の起工式以来、搬入のための大

型車、中型車が頻繁に出入りがある。一日往復で六八台といわれているが、大変多く感じられる。そのほかにリニアのための商用車が多く出入りしている。三年後までには道路改良があるものの、本格的に残土運搬が始まったらどうなるかと心配だ。

釜沢の除山坑口の掘削が始まり、五月十五日に保安林解除が示されて、上蔵小洪川坑口も間もなく掘削が始まるうとしている。当面は三か所の仮置き場に運び込まれると思うが、そう多くは置けないと思う。松川町生田地区の残土本置き場の現在はどうのように話が進んでいるのか。下流の生田福与地区との話はどう進んでいるのか。

また、大鹿村内における本置き場、大西グラウンド、ろくべん館前、深ヶ沢の進捗状況はどうなっているか。釜沢奥の二か所の残土置き場の進捗状況はどうか。

村長 基本的には四月二十九日付の新聞報道によるもの以外は、私も情報を得ていない。まず生田地区について置き場としての候補地は生東地区で、計画地の下流域に当たる福与地区は過去の災害の経験から上流域の土砂置き場は反対との表明をされている。さらに福与区から生東区に対して何項目かの質問状が出されたという記事が載って

いる。また先日、松川町長が町議会の冒頭挨拶でリニアに関して触れておられるが、町とすれば大きな変化はないというお話をされたようだ。リニアに関して長野県知事がJR東海の社長と直接お話をされて、徐々に進みつつあるという認識の中で、町の残土処理については大きな変化はないというお話をされたものかと思つて、これも新聞報道を見させていただいた。

それから、大鹿の仮置き場だが、上蔵河原の変電所予定地と小河内川左岸の二か所については使用できるものと見ている。その他の箇所については今後の工事の進行に聞いていない。今後いくものと考えている。

本置きとなるグラウンド、ろくべん館付近についても、今後村との協議が向こうから起きてくるのかなと思つている。釜沢奥の二か所については、今のところ使うという動きはないし、非常に課題が多いので、使わないという方向もあるのかなと思つている。

今日の一般質問でも、小洪線の通行について非常に懸念が示されている。もし村内にいい場所があれば、積極的に探したいと思つている。具体的にたまたま相談させていただく。